

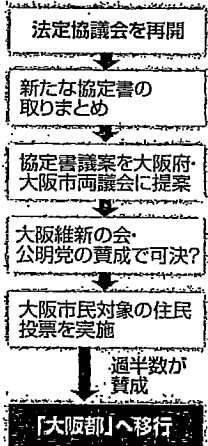
公明反維新一転

住民投票賛成へ 市議ら「どう」説明

足踏みを続けてきた大阪都構想が一転、前に進む可能性が高まった。橋下徹・大阪維新の会代表（大阪市長）が目指す都構想の住民投票に対し、公明党が条件付きで賛成する方針を固めたためだ。「反維新」の姿勢を鮮明にしてきた公明党の方針転換に、府議、市議らには困惑が広がる。

〈本文記事一面〉

予想される今後の流れ



予想される今後の流れ
月、公明党は、大阪市を五つの特別区に分割するとして橋下氏らの提案を、他の野党とともに否決した。これに対し、橋下氏は2月、「人の道に反する」などと公明党を激しく批判。同党市議も「罵倒は右に刻んだ」と応酬し、亀裂は決定的に。結局、都構想の制度案は10月、府市両議会で公明のほか、自民、民主系、共産各党派などの反対で否決された。

「都構想の住民投票に協力します」。関係者によると、公明党大阪府本部の幹部は25日夜、橋下氏らにこう伝えた。

維新と公明党は、2012年衆院選で選挙協力を行った新に公明党が反発。今年1



公明党と決裂し、法定協議会の席を立つ橋下市長(右)(1月31日、大阪府庁で)

衆院解散が現実味を帯び始めた11月中旬、橋下氏は松井一郎知事とともに公明党候補のいる選挙区での出馬を検討すると表明。維新幹部には「公明が都構想への協力を約束しない限り、立候補する」との決意を伝

えた。公明党側には、「厳しい戦いになる」（府議）との危機感が広がった。だが、同日23日、橋下氏は不出馬を表明。理由については、各党の関係者の間では「維新と公明の間で何らかの密約が交わされたのではないか」（自民党府連幹部）との臆測が広がったが、維新、公明党とも明確に否定した。

今日21日には、橋下氏の握唱により、市民団体が都構想の是非に関する住民投票実施を問う「プレ住民投票」を求める署名活動を大阪市内でスタート。公明党市議団の待場康生幹事長はこれに先立つ19日、自民、民主系、共産の市議団幹事長と共同記者会見を開き、

「維新が扇動しているのは明らか。住民を愚弄する行為だ」と語っていた。

「住民投票に協力する」との突然の方針転換は、公明党本部が決定し、同党府本部に指示したという。衆院選で、維新の党が大府府内の政党別比例票でトップの114万票を獲得するなか、一定の支持を得たこと、考慮したとみられる。

ただ、府議・市議選が行われる来年4月の統一地方選に向け、公明党は既に自民党と連携し、維新と対峙する方針を打ち出している。市議らには、「支援者にとり説明すればいいのか」との声も上がる。

橋下氏、公明幹部会談

大阪都構想、協力要請か

大阪維新の会の橋下徹代表（大阪市長）と松井一郎幹事長（大阪府知事）は25日夜、公明党大阪府本部の佐藤茂樹代表（衆院議員）ら幹部と大阪市内のホテルで非公式に会談した。会談

では、維新側が大阪都構想実現に向け、公明に協力を求めたとみられる。維新、公明両党は都構想の区割り案絞り込みを巡り1月に決裂。対立が一時深刻化した

が、維新が大阪で比例第1党を維持した衆院選の結果を受け、両者が関係修復を模索する動きとみられる。

都構想の協定書（設計図）議案は10月、公明など野党の反対で大阪府市両議会が否決した。橋下氏は「公明にやられたまま人生を終わ

らせることはできない」と言い、松井氏とともに今月の衆院選で、佐藤氏ら公明幹部のいる選挙区から立候補を検討。最終的には見送ったが、公明は反発した。

出馬騒動後に維新幹部と公明幹部の会談が明らかになるのは初めて。両党の関係が修復すれば来年4月の統一地方選や都構想の行方に影響を与えることから注目される。

対立し、府内ほとんどの選挙区で自民党候補を支援した。統一地方選でも公明と自民は選挙協力で合意している。維新は衆院選では府内の小選挙区で負け越したが、比例で一定の影響力を見せつけた。【林由紀子、熊合豪、重石岳史】

維新は府市両議会で過半数に届かず、都構想は実現が見通せないが、公明の協力が得られれば大きく前進する。ただ府・市議会内で維新への反発は根強く協力を得られるかは不透明だ。公明は衆院選では維新と